



国交省貨物課長

荷主勧告制度の適用視野

JTDOなどと意見交換

日本トラックドライバー育成機構（JTDO）、酒井誠代表、東京都新宿区は11日、中部ブロック青年部協議会（広瀬秀和代表幹事）と共催で国土交通省自動車局の加藤進貨物課長を名古屋市内に招き、意見交換会を行った。

酒井代表が「安全意識の高まりでトラック事業者が第一当事者となる事故は減る一方、人材不足を起因と活発に意見を交換

する無理な運行により事故につながるケースが増えていく。魅力ある会社づくりは荷主次第の面もあるが、我々ができる唯一の手段は人材育成への地道な取り組み。加藤課長と意見交換し、より良い会社をつくる一助にしたい」とあいさつ。

加藤氏は「自動車行政で特にトラックに関わるのは初めて。常々、現場がどんな状況で何が課題か、事業者の生の声を聞くことが大切だ」と述べた。

意見交換には、愛知を中心に関東や関西、北陸からも参加者が集まった。はじめに加藤氏が最近の物流行政について解説。また、各社が①トラガールの活躍②人手不足への対応③運送事業者の多重構造―の状況を説明し、それぞれの課題や解決に向けての考え方や、行政に支援してもらいたい要望などを話し合った。

加藤氏は「ドライバーの労働時間規制を理解していない荷主は多い。厚生労働省や公正取引委員会に協力をお願い、これまでに例のない荷主勧告制度の適用も視野に入れたいと委ねていない」と強調した。（梅本誠治）

国土交通省自動車局の加藤進貨物課長は、日本トラックドライバー育成機構（JTDO）、中部ブロック青年部協議会との意見交換で愛知県を訪れたのに合わせ、地元の実業所を精力的に回り、現場の声を集めた。

訪問したのは、ホーコー（西影篤範社長、小牧市）の本社と、吉正運輸倉庫（吉野元康社長、名古屋北区）の小牧営業所。ホーコーで、社内の様子やホームセンター向けの出入庫、繊維関係の荷主の物流センター内に事業所を置く吉正運輸倉庫では製造現場や保管方法、出荷作業などを確認した。

また、翌日には、JTDOの酒井代表が社長を務める鳴海急送（大府市）を視察。隣接するJTDOのトレーニングセンター愛知でトラック・ドライバーコンテスト全国大会で最難関となる、バックによるスラロームとホーム着け実演を見学した。

加藤氏は「酒井代表に初めて会ったのは、鳴海急送のドライバーがドラコン全国大会で国土交通大臣賞を受賞した時。そこまでの成果を上げた練習現場を見ることができたのは、とても参考になった」と話した。（梅本誠治）

事業所回り現場の声聴く

ホーコー & 吉正運輸倉庫